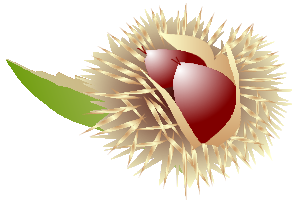




江南小だより

八戸市立江南小学校 学校だより
令和 2年 9月 30日 発行
通算 第 512号

教育目標 強い子になろう



褒め方の極意

校長 花生 典幸

朝夕めっきり涼しくなり、秋の気配が急速に濃くなってきたことを感じるこの頃です。

本校は今年から「二学期制」に移行しましたので、まもなく前期が終了することになります。10月2日（金）には、終業式を行い（後期の始業式は、10月5日・月曜日に行います）、子どもたちの手には、ここまでのがんばりの成果が記された通信票が渡されます。多くの我慢や辛抱を重ねながらも、子どもたちは、それぞれに熱心に学習に励み、前向きに学校生活を送ってきました。通信票には、ぜひお子さんと一緒に目を通しながら、その努力や伸びを確かめていただき、たくさん褒めてくださいと思います。



さて、「褒める」という行為には、三つの効果があると言われています。

- ① 褒めた相手から好かれる
- ② 褒めるために相手をよく観察するようになる
- ③ 褒められる人は、やる気を起こして、さらに褒めてもらおうと努力する

ただし、褒めるときに気をつけなければならないポイントも三つあるそうです。

- ① あれもこれも取り上げて褒めるのではなく、できるだけ一点に絞って褒める
- ② 何が、どんなふうに良かったのか、具体的に指摘しながら褒める
- ③ 結果を褒める（そこに至るまでのプロセスが大事という人もいますが、褒められてうれしいのは、あくまでも結果です。「結果はともかくとして、よくがんばった！」では、次の意欲にはつながりません。「この結果のこの部分には、あなたのこんな良さがよく出ている。素晴らしい成果を残したね」……こっちの方がやる気が湧いてきますね）

褒めるには、リスクもあります。相手にお世辞や口先だけと思われることです（それを防ぐ究極の賛辞は「●●さんがあなたのことを褒めていたよ」と第三者の口を通して耳に入れる方法だそうです。「ウインザー効果」と言います）。

人の欠点は努力しなくても見えますが、褒める点は、努力して考えないとよく見えにくいものです。褒める行為に、あるいは褒める言葉に説得力をもたせるためには、「相手を深くよく知る」ということが、まずなにより大事なのですね。

もうすぐ始まる令和二年度の後期。学校でも、家庭でも、子どもたちの成長や進歩に、心してていねいに目を凝らしながら、お互いにたくさん褒めることに努めていきたいものだと思います。よろしくお願ひいたします。